



くまもと健康支援研究所と提携して療養者向けの給食の製造を始めるヒライ給食宅配サービス
=熊本市

くまもと健康支援研究所、ヒライ 療養者向け給食で提携

熊本・九州
けしん

健康福祉系ベンチャー「くまもと健康支援研究所」(熊本市、松尾洋社長)は16日、弁当・総菜の製造販売のヒライ(同市)と提携し、療養者向け給食事業を10月にも本格的にスタートさせることを明らかにした。塩分量を抑える独自のノウハウと、2社の販売網を組み合わせ、給食利用者の拡大を目指す。同研究所は約30の医療機関と連携し、熊本市北部や山鹿市の糖尿病患者らを対象に1日約150食の給食事業を手掛ける。メニュー

は担当医らの助言を基に作成。栄養師のバランスと塩分量抑制のノウハウを持つという。ヒライの子会社で企業や官庁に弁当を宅配するヒライ給食宅配サービス(熊本市、嶋田一昭社長)も3月から高齢者向けの介護給食事業を展開している。新事業では、くまもと健康支援研究所がノウハウを提供し、1食当たりの塩分量2.5〜2.5g以下のメニューを考案。ヒライ側は研究所の医療機関ネットワークも活用し、介護給食を現在の1日約150食から3千食まで拡大。年間約4億5千万円の事業収入を目指す。同研究所は、給食利用者を対象にした独自のリハビリや健康指導など疾病管理サービスの提供拡大を図る。嶋田社長は「医療機関とのつながりが持てて心強い。県内外で事業展開したい」、松尾社長は「製造業も含めた『医商工連携』のモデルとして成果を出したい」としている。

(原大祐)